

2009年12月14日

新型インフルのワクチンを無駄にしない注射器（テルモ）

新型インフルエンザ用のワクチンの生産能力に限界があり、ワクチンが不足気味のなか、1人でも多くの希望者にワクチンを投与しようという目的で開発されたのが、医療機器メーカー大手のテルモが、10月から全国の医療機関向けに発売した注射器「FN シリンジ」(1箱280本入り、1万6758円)だ。

注射器でワクチンを投与すると、注射器の内部に薬液が少量残ってしまう。それだけワクチンを無駄にしているわけだ。FN シリンジは、針の接続構造に工夫を凝らし、注射器に植え込んでいる。従来の着脱式タイプと比べ薬液の残量が減り、これにより注射器への薬液の充填量を減らすことができるというもの。新型インフルエンザ用ワクチンの投与量は0.5ミリリットルとされているが、この量をFNシリンジで投与すれば、約10%の節約効果が期待できるという。「当社の生産能力からして月産100万本が限界。10月、11月と完売しており、今後も同じ生産体制で臨む」(同社)としている。

=以上=